

令和2年度 「ハッピー♥スマイル」 第3回開催報告

- 【日時】 令和2年11月15日（日） 13:00～
【場所】 浅口市健康福祉センター
ボランティア研修室
【参加者】 保護者5名 子供1名 救急救命士1名
医師1名 養護教諭1名



1 開会

2 アレルギー情報提供（高山より）

① 令和2年11月5日 時事メディカル

『増えるピーナツアレルギー・摂取できる量を知って予防』

佐藤さくら先生（国立病院機構相模原病院臨床研究センター）

「ナッツ類全般を避ける人もいますが、ピーナツはあくまで豆類です。ナッツは木の実でアーモンドやカシューナッツは問題なく食べられる人がほとんどです」。現れる症状は個人差が大きく、大量に食べても皮膚症状がわずかに出現する人もいれば、微量でも重くなる人もいます。「原因となるアレルゲンがどの程度までなら摂取できるかを調べる『食物経口負荷試験』で検査すれば、摂取可能量を知ることができ、食生活におけるQOL向上につながります。」とアドバイス。

② 令和2年10月15日 国立成育医療研究センター プレスリリース

『「卵黄」を食べて数時間後に嘔吐などを繰り返す赤ちゃんは注意』

一般的なIgE依存型の鶏卵アレルギーでは、「卵黄」より「卵白」に反応することが多いとされています。そのため「卵黄」は比較的アレルギー症状を誘導しない成分であると考えられてきました。しかし、「卵黄」を摂取した数時間後に繰り返し嘔吐を認めるような場合には、鶏卵による「食物蛋白誘発胃腸炎」が疑われるため注意が必要です。

③ 「食物アレルギー患者さん体験記」アナフィラキシーってなあに.jp

食物アレルギーとわかってから今までの生活や病院のこと、園や学校との関係の作り方など食物アレルギーの患者さんやご家族の方の体験談を紹介。

- ・子供に意識してかけている言葉は、「あなたのままでいい」「食べることは制限があるが、それ以外は何でもできる」という前向きな言葉。親もアレルギーを正しく理解し、子供にわかりやすく伝える。子供もいろいろなことがわかっているし、成長する力を持っている。子供が自分を肯定して受け入れながら、うまくアレルギーと付き合っていけるようにサポートしたい。
- ・子供が食物アレルギーと診断されて非常にショックで、誰か私の気持ちをわかって！という毎日だった。わかり合える友人に出会い、信頼できる専門医の存在を知り、食物アレルギーと向き合えるようになった。歩み寄りと経験で学校との信頼関係が築けた。子供の自立を手助けしていきたい。食物アレルギーだからといって諦めることのない充実した生活を手に入れて欲しいと願っている。

☆それぞれの体験記に今井孝成先生（昭和大学）から適切で素敵なメッセージがありました。